

「IIJマルチプロダクトコントローラサービス」において Cisco、Fortinet製品の運用管理に対応開始

-- IIJの企業向けルータ「SEIL」「SA-W」に加え、グローバルシェアを持つ2社製品の一元管理を実現 --

当社は、ネットワーク機器を遠隔で一元的に制御・管理できるサービス「IIJ マルチプロダクトコントローラサービス」において、本日より、シスコシステムズ社の「Cisco IOS」、および Fortinet, Inc. (以下、Fortinet) の「FortiOS」を搭載したネットワーク機器の運用管理に対応いたします。当社の企業向け高機能ルータ「SEIL(ザイル)」「SA-W」シリーズに加え、グローバル市場で高いシェアを持つ両社のネットワーク機器を同一の管理画面で一括して管理できるようにすることで、ネットワーク管理者の運用負荷の軽減を実現します。

近年、Microsoft 365 や Google Workspace など、クラウドサービスの利用が急速に拡大する中で、企業ネットワークの安定性や可用性の確保はネットワーク管理者にとって一層重要な課題となっています。こうした状況下で、ネットワークのトラブル対応や調査を行う場合は、各ネットワーク機器の管理画面を個別に確認して様々な操作をする必要があり、ネットワーク管理者の負荷が大きな課題になっています。

当社が 2021 年から提供している IIJ マルチプロダクトコントローラサービスは、当社の独自技術であるルータの自動接続・一元管理システム「SMF(※1)」を基盤としたネットワークマネージメントサービスで、「SEIL シリーズ」および「SA-W シリーズ」に対応しています。

今回、SA-W シリーズに新たに実装された中継機能との連携により、SMF 非対応のネットワーク機器の運用管理が可能となりました。多くの企業に導入されている、シスコシステムズ社の「Cisco IOS」ならびに Fortinet の FortiGate シリーズに対応することで、企業ネットワーク(WAN)のゲートウェイ機器だけでなく、LAN 内の機器もシームレスに一括管理できるようになり、ネットワーク管理者の運用負荷の一層の軽減が可能となります(※2)。

(※1) SMF (Service adaptor Management Framework) : ネットワークに接続される機器の自動設定と一元管理機能を提供するマネージメントフレームワーク。

(※2) 「SEIL アプライアンスシリーズ CA10」、「SEIL/X4」、「SEIL/x86 Ayame」は 2025 年度上期に対応予定です。

また、今後は、ネットワークのパフォーマンスとリアルタイムのトラフィックフローを可視化する「ウェザーマップ」、およびコンフィグ変更履歴/世代管理機能をリリースし、ネットワークの状態を一目で把握し、迅速かつ効率的に管理できる機能を拡充する予定です。

■管理機能仕様(主要項目を抜粋)

オペレーション

- ・コンフィグの管理・反映
- ・運用管理コマンドの実行
- ・サービスアダプタの再起動
- ・監視通知設定(メールおよび Teams 連携)

ステータスの参照

- ・トラフィックおよびリソース状況(CPU 利用率、メモリ使用量)
- ・起動状況(up/down)
- ・Web ターミナル

・ログの取得

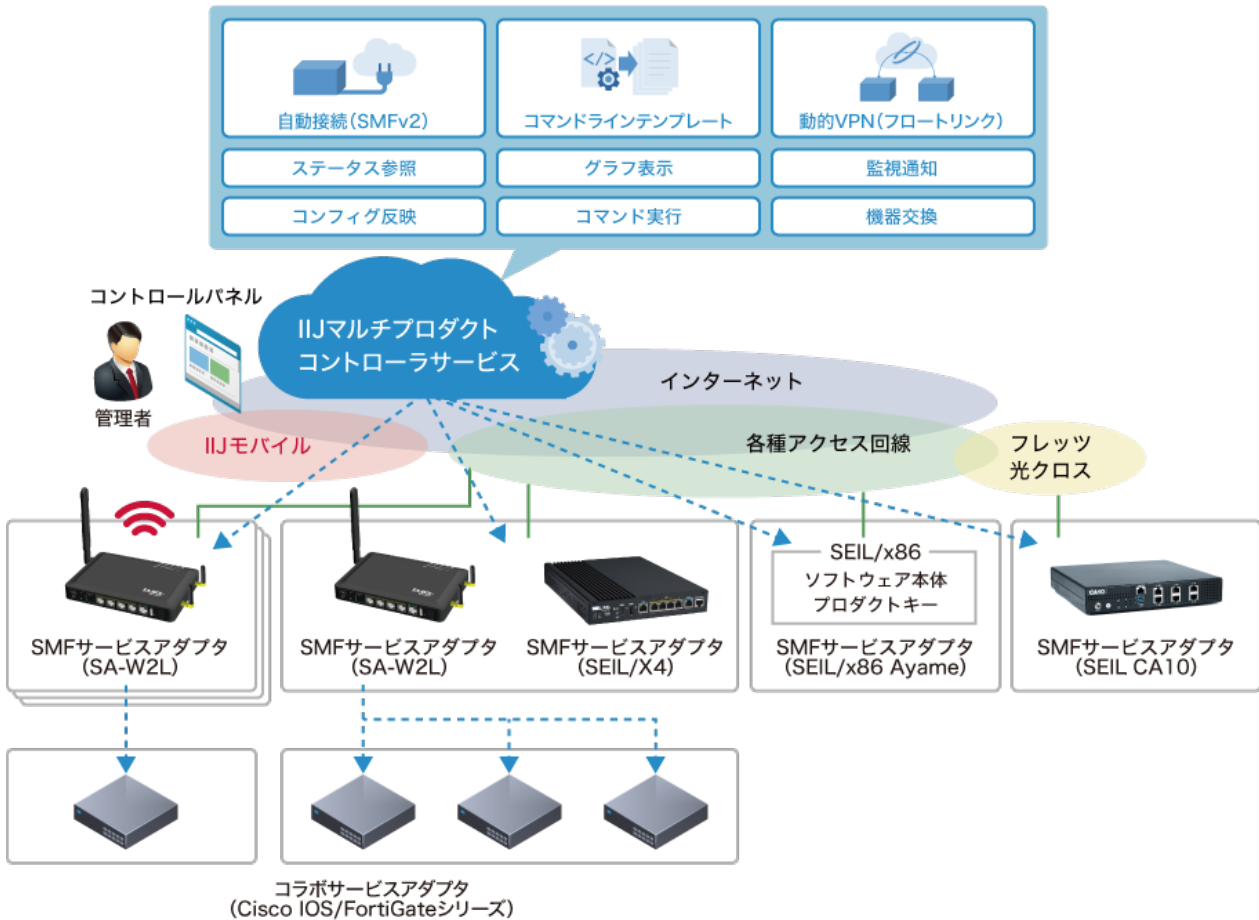
■価格(税抜)

個別見積もり

※ 管理対象機器 1 台あたりのシステム利用費用が発生します。

※ 機器本体、および保守費用は含みません。保守は機器購入先と別途契約が必要です。

■イメージ



➤ サービスの詳細は、<https://www.ij.ad.jp/biz/mpc/> をご覧ください。

当社は今後も、ネットワークの高度な運用技術や知見を活かし、お客様のネットワークマネージメントを効率化するサービス開発や機能拡充を進めてまいります。

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 太田、荒井

TEL : 03-5205-6310 FAX : 03-5205-6377

E-mail : press@ij.ad.jp URL: <https://www.ij.ad.jp/>

※本プレスリリースに記載されている社名、サービス名などは、各社の商標あるいは登録商標です。